

感動のドキュメンタリー映画

100年前 富岡市が生んだ誇るべき女性の生涯

心理学者

原口鶴子の青春

— 100年前のコロンビア大留学生在が伝えたかったこと —

日時 平成27年5月24日(日)

- 第1回:午後1時～
(0時30分開場)
- 第2回:午後3時30分～
(午後3時開場)

会場 富岡市社会教育館

入場料 500円

第1回・第2回

ともに定員60人

<前売りチケット>

- ・社会教育館
- ・一ノ宮公民館

ナレーター 大和田 伸也

鶴子の声 五大 路子

監督/脚本 泉 悦子 (当日来場予定)

製作/有限会社テス企画

第20回東京国際映画祭招待作品



100年前単身アメリカに留学 日本人女性初の心理学の博士号を取得

この映画は、一ノ宮に生まれ育った「女性心理学者の先駆」原口鶴子(旧姓新井つる)の一生をたどったドキュメントです。

鶴子は、一ノ宮小学校、高崎女子高等学校を経て日本女子大学校を卒業後、1907年、単身ニューヨークへ渡り、コロンビア大学大学院で日本人女性初の心理学博士号を受けました。その後帰国しましたが、志半ばの29歳でこの世を去りました。

富岡市が生んだ誇るべき女性、強い意志力と自律心を体現した女性の生涯を映像でよみがえらせたこの映画。富岡製糸場をはじめ貫前神社、光明院、中高瀬に移築された鶴子の生家などが登場し、市民必見の作品となっています。

この映画を国登録有形文化財であり、歴史的・文化的価値を有する社会教育館で上映します。

- 主 催 富岡市教育委員会(生涯学習課)
- 問い合わせ 富岡市社会教育館(電話62-2033)
- 作 品 HP <http://www.sepia.dti.ne.jp/tess/>

原口鶴子が残した精神疲労の研究、国際性、自立の精神、新しい夫婦像は、その後、日本で起こった女権運動に影響を与えましたが、時代の流れとともにいつしか忘れ去られていきました。2児を産み、死を迎えるまで、研究、執筆、講演と前向きに活動を続けた鶴子は『楽しき思い出』という留学記を残しました。そこには100年前の留学の様子が、鋭い観察眼と自己実現に燃える女性のみずみずしい感性で描かれています。このドキュメント作品は、この留学記をもとに、鶴子の生涯をこのまま歴史の狭間に埋もれさせたくない、女性の自立に関する作品を数多く手がける泉悦子監督が自主制作したものです。

— 100年前の
コロンビア大留学生が
伝えたかったこと —



心理学者 原口鶴子の青春

泉悦子監督来館！

泉監督が映画製作の思い出話などについてお話しをされます

出演(登場順)

- ・今井良長
- ・高村忠恵
- ・青木生子
- ・本間道子
- ・荻野いずみ
- ・國枝マリ
- ・作山峻治
- ・野口幸生
- ・今村孝道
- ・金子浩之
- ・倉西早百合
- ・倉西正武
- ほかの皆様



監督：泉悦子の略歴



東京都出身。早稲田大学第一文学部演劇専修卒。(株)記録映画社入社。上野耕三監督に師事し、ドキュメンタリー映画の演出を学び独立。シナリオ研究所にて桂千穂氏に師事し、劇映画のシナリオを学ぶ。100本以上の官公庁、企業のPR映画、ビデオの脚本、演出を手がける。1998年ニューヨーク大学に短期留学し、作りたいものを自分で作る自主製作を志す。2006年初自主製作『ニューヨークで暮らしています～彼女たちがここにいる理由』完成。2007年自主製作『心理学者原口鶴子の青春～100年前のコロンビア大留学生が伝えたかったこと』完成。2008年、企画、製作、監督、脚本、編集のドキュメンタリー映画『心理学者原口鶴子の青春』で山路ふみ子映画賞福祉賞を受賞。2011年、長編劇映画『エクレールお菓子放浪記』の脚本執筆。2014年、ドキュメンタリー『みんな生きている～飼い主のいない猫と暮らして』完成。現在、ドメスティックバイオレンスをテーマにした劇映画を準備中。

協力(登場順)

- ・群馬県富岡市
- ・富岡製糸場
- ・富岡市立一ノ宮小学校
- ・群馬県立高崎女子高等学校
- ・光明院
- ・日本女子大学
- ・コロンビア大学
- ・ニューヨーク州トロイ市
- ・トロイ市立図書館
- ・レンスラーカウンティ歴史協会
- ・ニューヨーク日系人会
- ・伊東市史編さん室
- ・津田塾大学
- ・早稲田大学図書館
- ・国立国会図書館
- ・千代田区立図書館
- ・鎌倉文学館
- ・横浜開港資料館
- ・ブルックリン・ディリー・イーグル
- ・ニューヨーク公共図書館
- ・YMCA-NYC

スタッフ ・企画/プロデュース/脚本/編集/監督 泉悦子

・撮影 秋葉清功 ・音楽 金子文郎 ・録音 竹山公一郎ほか